

ネイチャーウォッチングだより

令和7年9月24日(水)

愛知教育文化振興会

協力:岡崎女子大学・短期大学

9月21日(日)、A日程第2回のネイチャーウォッチング「干潟の鳥ウォッチング」を開催しました。会場は田原市緑が浜公園前の汐川干潟です。残暑が続き、日差しも強くて暑い日になりましたが、23組67名の親子の皆さんが、バードウォッチングと干潟の生き物観察を楽しみました。

会が始まる前から干潟ではとてもたくさんの白いサギが見られ、さっそく双眼鏡やフィールドスコープを使って観察を始める親子もいました。「干潟というのは、干潮になったときに海の水が引いて海底が出てくるような場所です。新月や満月のころに海が大潮になると、今日のように広い干潟が現れるのです」と、講師の宇都宮森和先生が説明されました。先生が「どうして干潟にはこんなに鳥が集まってくるのでしょうか?」と子どもたちに質問すると、「貝やゴカイみたいな餌があるから集まってくる」と的確な答えが返ってきました。

先生が用意した野鳥クイズにも子どもたちは真剣に考えて答えます。クイズを通してオスとメスで姿が違う野鳥がいること、野鳥は成長するにつれて姿が変わっていくこと、夏と冬で羽の様子が変わる野鳥がいることなどを知ることができました。



講師の解説を熱心に聞く参加の皆さん



干潟にはどんな野鳥がいるかな

野鳥観察が始まると、「白い鳥がたくさんいる!」、「あれはサギだね。ダイサギかな」、「黒っぽいのはアオサギだよ」など、双眼鏡で見た野鳥と写真とを見比べながら確認しました。遠くにいる野鳥でも、ユリカモメやカワウ、ハシブトガラス、イソシギなど、よく見ることでも名前が分かる楽しさを味わうことができました。

後半は干潟にすむ生き物観察です。汐川干潟で見られる代表的な12種類の「生き物見つけカード」の写真とヒントを手がかりに、親子で一緒に探しました。「この貝はオキシジミだね」、「こんなところにイソギンチャクがいた!」などの声が干潟のあちこちで聞かれました。広々とした干潟で、親子で野鳥や干潟の生き物観察をした経験は、よい思い出になったことでしょう。最後に参加者アンケートの一部を紹介します。

鳥をたくさん見ることができて楽しかったです。干潟に行ったことがなかったので、行けてよかったです。また行きたいです。(子)

フィールドで実際に鳥やカニなどの生き物を探してそれが何か確認するという経験がなかったので、これが何なのかと一覧から探すワクワク感と名前がわかった時の喜びなどがあり、楽しめたと思いますし、興味を深めることができとてもよかったですと感じています。(父)



参加親子、全員集合!

ふだん、昆虫や爬虫類にしか興味の無い子どもが、鳥をじっくり観察する初めての機会でした。恐竜も大好きなので、鳥から恐竜の進化についても話が聞けてとても興味深かったです。このような機会をくださり、ありがとうございます。親子ともども、とても楽しい時間を過ごすことができました。(親)

鳥をいっぱい見つけられて楽しかったし、貝殻が時々動いてヤドカリだってわかったのがうれしかった。望遠鏡でくちばしの色をみると何の鳥かわかったのがうれしかった。アオサギを見つけてうれしかった。また来年もやりたいです。(子)

双眼鏡の使い方を優しく教えていただき助かりました。遠くの鳥がはっきり見えて感動しました。子どもに対して明るく優しく接してもらえてうれしかったです。ありがとうございます。(母)